

東京成徳大学 八千代キャンパス 図書館だより

Vol. 24
2016. 9.15 発行



図書館運営委員会



「新書」を読もう！

日本伝統文化学科
森下達先生

学術書は重いし難しそうで、手が出ない……。そんなあなたにぜひ手にとってほしいのが「新書」です。現代に生きるわれわれにとって重要になるトピックを扱うこの「新書」、学者が書いていることも多いですが、研究者仲間ではなく一般の人に向けたものなので、基本的には文章が平易でたいへん読みやすいです。知識と教養を深めるのにもってこいだといえるでしょう。もちろん中には、学問的な裏づけのまったくない話が展開される、よくない新書もあります。

でも、そういう本に出会うことも、それはそれで大事だったりもします。と、いうのも、大学で学んでいく上では、本や論文を批判的に読むという訓練が必要になってくるからです。読み通すことがそもそも難しい学術書とちがい、さらりと読めて、しかも身近な話題を扱っているためとつき易い新書は、批判的思考力を深めるためにとても役に立ちます。私も学部生のころは、図書館に行っては新書を何冊も借りてきて、ものによってはツッコみを入れながら読む、という行為を繰り返していました。ぜひみなさんも、図書館でいい本に出会うだけでなく、「本が100%信用できるものではない」ことに気づく経験もしてみてください。



↑新書にしておくのが惜しい本から、おもしろいけど学問的には？な本、いかげんな議論に読んでいて怒りに震える本まで……。いろいろな意味でオススメの新書たちの書影です。どれがどれとはいいません。読書の参考になれば幸いです。

- ・東浩紀『動物化するポストモダン オタクから見た日本社会』（講談社現代新書、2001年）
- ・正高信男『ケータイを持ったサル 「人間らしさ」の崩壊』（中公新書、2003年）
- ・土井隆義『友だち地獄 「空気を読む」世代のサバイバル』（ちくま新書、2008年）
- ・和島裕介『創られた「日本の心」神話 「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社新書、2010年）

長期貸出している本の返却日は、**9月23日(金)**です。
忘れずに返却をお願いします！

